

しず老施協

巻頭言

会長としての抱負

災害に強い県老施協と在宅重視の福祉を目指して――



静岡県老人福祉施設協議会

会長 石川 三 義

平成24年から2年間引き続き静岡県老人福祉施設協議会の会長を務めさせて頂くことになりました。微力ではありますが、県老施協の健全な発展と高齢者福祉・介護の向上のために全力で努力していく所存でありますので、会員の皆様のご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

これまでの2期4年間で、「関東ブロック研究大会」の開催をはじめ、会員施設全体のレベルアップとコンプライアンスの確立、介護職員等の実践研究発表の場としての「静岡県高齢者福祉研究大会」の開催、「介護の日」の県民への啓発活動、県老施協の組織改革と特養部会等の会費徴収の停止による経費節減、県長寿政策局との連携による新型インフルエンザ・災害時対応マニュアルの作成、被災地へのボランティア支援や義援金の募集など、会員の協力により様々な取り組みをさせていただきましたことを改めて感謝いたします。

さて、昨年の東日本大震災から既に一年が経過しましたが、東北地方の被災地はいまだ復興への目途が立っていない状況です。東日本の大震災は決して他人事ではありません。近々静岡県内でも南海トラフを震源として巨大地震が発生し、津波等によって甚大な被害が想定されています。県老施協としても、福祉施設がどのように災害に備え、準備したらよいか早急に検討していかなければなりません。特に特養ホームなどの施設は、備蓄品を含め地域住民の避難所としての機能

を強化していくことや、更に県内の海岸部の施設と内陸部の施設との災害時の相互応援協定、静岡県老施協と近県の山梨県、長野県、埼玉県等の老施協との災害時応援体制の確立などを早急に進めていきたいと考えています。

次に、平成24年からの介護報酬単価改定では、個室ユニット特養の単価も多床室の単価も引き下げられ、施設側にとっては厳しい内容となっております。また地域包括ケアシステムの構築に向けて24時間巡回型サービスの導入を図っています。今後、特養ホームなどの福祉施設の競争相手は、民間事業所の経営するお泊りデイサービスやサービス付き高齢者住宅、住居型有料老人ホーム等であります。このような時こそ、県内の老施協会員施設は、一致団結して民間事業所との競合や様々な困難に立ち向かわなければならないでしょう。これまでの福祉施設中心の発想から在宅重視の発想へ転換していくことや、待ちの福祉から攻めの福祉へ転換していくことが重要であるといえます。そして県老施協としても、将来を見据えて、各法人・施設を担う後継者養成のための研修プログラムの実施や海外の福祉先進国への視察研修を実施できないか検討していきたいと考えています。

最後に、会員の皆様をはじめ行政機関及び各種関係団体のご理解とご支援を切にお願い申し上げます。

特集1

『介護報酬の改定を受けて』

平成24年度の介護報酬の改定を受けて、施設への影響、今後の取り組み、展望等について報告していただきます。

『従来型・ユニット型特養、
介護報酬の改定を受けて』

特別養護老人ホーム 百々山
施設長 岩 沢 光 高

平成24年度は、三年に一度行われる介護報酬の見直しの年度でした。前回の平成21年度改定の後、今回は診療報酬と介護報酬の同時改定という事で、その動向に早くから情報の収集に努めなくてはいけないと思ったことを記憶しています。前々回の平成十八年度の時は「2015年の高齢者介護～高齢者の尊厳を支えるケアの確立に向けて～」に沿う形で、法改正、報酬改定が大きく行われ、介護予防、小規模多機能サービス、地域包括支援センターの創設などがされました。そして、今回の改定は、平成22年3月に地域包括ケア研究所から出された「地域包括ケアシステムに関する報告書」に沿った改定がなされるであろうことが予想されました。

今年一月に出された改定の概要の基本的考え方には、「医療と介護の機能分化、連携の強化」「社会保障・税一体改革成案の確実な実施に向けた最初の第一歩」「2025年のあるべき医療・介護の姿を念頭におくことが必要である」と謳っています。団塊の世代が七十五歳以上となり、高齢化がピークとなる2025年に向けて介護保険制度を持続可能な制度として対応できるようにする為のスタートを切った改定であったと思われる。

私の施設は、従来型百十床、ユニット型五十床の入居サービスを実施しています。当然の話ですが、今回も収入の増減に関わる要素として、①介護報酬単位の変更、②加算の改廃が挙げられますが、今回は加えて③地域区分の変更が行われました。この3つの視点からみると、従来型においては介護報酬単位は減（平均23.2単位）、加算は介護職員処遇改善交付金が加算という形で継続されました。今まで交付金の交付を受けているところは継続して加算の算定をするということであると思います。それ以外の加算については収入に大きく影響を及ぼすような目新しいものはないように思われます。地域区分の見直しは大きく、報酬単位

の減額の部分を少し穴埋めしてくれる形となりました。結論的には、従来型特養の収入は改定前の約1%のマイナスになりました。

一方、ユニット型については、介護報酬単位は下げられましたが、従来型に比べ下げ幅は小さく、平均7.6単位の減でありました。地域区分変更に伴い単価のアップがあった為、収入は多少増額（改定前の約0.3%）になりました。加算については従来型と同様です。

前段で触れた「地域包括ケアシステム」構築に向けたスタートという観点から考えると、今回の特養に関する改定は、認知症行動・心理症状緊急対応加算の新設、日常生活継続支援加算に吸引・経管施行の利用者の要件が加わったこと、多床室型とユニット型の報酬に差がついたこと、介護職員の処遇改善交付金が加算と言う形で継続されたことなど何点か方向性が打ち出されました。しかし、明確な形でその方向性が示された改定ではなかったように思われます。

改定がされるたびに、報酬の単位の変更による収入の増減に一喜一憂してしまいましたが（運営を考えた時は、これは一番の関心事であり、当然の事ではありますが）、地域包括ケアシステムの構築という大きな流れの中で、「施設を一元化して最終的には住宅として位置づけ、必要なサービスを外部からも提供する仕組みとすべきである」と謳っている方向性が、今後どのような形で具体化されてくるのか注意深く見守っていくことが大切であると感じました。と共に、「特養」という施設の将来の姿について思いを馳せるきっかけとなった改定でした。

『社会保障・税の一体改革と
介護報酬改定』

社会福祉法人十字の園 ケアハウスアドナイ館
施設長(常務理事) 上 野 貢 一

社会保障・税の一体改革の中で、どこに住んでいても、その人にとって適切な医療・介護サービスが受けられる社会を目指し、2025年を目標に、地域包括ケアシステムが示されました。今回の介護報酬改定は1.2%（在宅1.0%、施設0.2%）プラス改定でした。

法人には、3つのケアハウスがあります。浜松に、平成5年開設の定員50名と通所介護事業所定員30名のアドナイ館、平成22年開設の特定施設入居者生活介護施設定員20名の第2アドナイ館、そして、御殿場に、平成11年開設の特別養護老人ホーム御殿場十字の園併設定員30名の御殿場アドナイ館です。アドナイ館の名前の由来は、旧約聖書創世記22章のヘブライ語アドナイ・エレ（主の山に備えあれ）から取った名前です。意味は、神がまなざしを注いで下さるという意味です。

今回の介護報酬の改定で影響を受けるのは、アドナイ館の併設通所型介護事業所と、特定施設第2アドナイ館です。通所介護事業所は、今まで、所要時間6～8時間を、5～7時間か、7～9時間への選択を迫られ、当面5～7時間を選択し、定員25名を30名に増員することで対応します。配置している理学療法士で、個別機能訓練加算(I)を取り、個別機能訓練加算(II)を目指します。又、歯科衛生士も採用していますので、口腔ケアにも引き続き力を入れて行きます。本人希望、在宅での生活を念頭に入れた選択です。特定施設入居者生活介護施設は、介護報酬単位が下がりますが、新たに介護職員処遇改善加算が本人負担になり、地域格差是正ため総単位数に3%乗じた額、浜松市の場合は、1単位10円から10.14円になりますので、今回の改定では本人負担増になります。

アドナイ館は、本人希望で、病院から退院された介護度5の方を、医療と介護の連携の中で、ターミナルケアに取り組んでいます。担当者会議では、本人の希望をかなえる為に、居宅介護支援事業所のケアマネジャーを中心に、訪問医療、訪問看護、訪問介護、訪問入浴、施設相談員、施設長、家族も入った会議が開かれます。医療、介護サービスの狭間を、家族と施設職員の特別援助サービスで埋めます。地域ケア包括システムの家族がいない在宅重度要介護者への支援、外付サービス住宅は、医療、介護を駆使しても限界を感じます。ケアハウスの役割として、一つの方向性が示されている思がします。

2012年度介護報酬改定と 白寿園訪問介護事業所の取り組み

特別養護老人ホーム 白寿園
施設長 古本達也

当法人の2012年度介護保険改正に向けた取り組みは、ご利用者・ご家族にその内容を説明するところから始まりました。訪問介護は、今回の介護報酬改定で、20分未満の身体介護の新設、生活援助の時間区分の

変更、介護職員処遇改善加算、生活機能向上連携加算、サービス提供責任者配置減算の新設などが行われました。

今回の介護報酬改定では、介護職員処遇改善加算と1単位単価の変更をご利用者等にご理解いただくことが大きな課題で、当法人では3月17日に午前、午後の2回にわたり「在宅サービス利用者合同説明会」を開催して、改定の内容と重要事項説明書の変更についてご参加いただいた約80名の皆様にお話をいたしました。また、生活援助の時間区分の変更については、ご利用者の意向の確認と、ケアマネジャーとの連絡調整などを行い、どうにか新年度を迎えることができました。

ところで、2012年度の介護保険制度改正では、地域包括ケアシステムの構築が掲げられ、地域密着型サービスの一つとして定期巡回・随時対応型訪問介護看護が創設されました。新サービスの参入について法人内でも検討したところですが、当地では夜間の訪問等を希望する方が少なく、人材の確保なども含め事業としての採算が難しい状況です。2012年5月28日の朝日新聞の報道でも全国1566保険者のうち2012年度に定期巡回・随時対応型訪問介護看護を導入する市町村は189保険者であり、率にすると12%にとどまっているそうです。当法人でも、地域ニーズを見極めながらも、今回の参入は見送り、従来通り、日中の訪問介護を中心にこれまで通り事業を展開することになりました。

これまでに複数回行われた介護報酬改定により、エリア内では複数の事業所が事業を撤退または拠点を変更し、当地に存在する社会福祉法人の訪問介護事業所は白寿園ホームヘルプサービスのみとなりました。そのような状況から、現在は集中する要望に応えるため人材の確保・育成が急務となっています。訪問介護は、ご利用者のお家で一対一で向き合う仕事です。従事者の資質がサービスの質、事業所の評価に直接結び付く仕事です。白寿園訪問介護事業所では特定事業所加算を算定していることもあって、毎月、事業所内で研修会を行っています。「ご利用者の自立を支援する」という意識とそれを形にする技術を誰もが身につけることができるよう、地域包括ケアの「訪問介護の拠点」としてレベルを高めていきたいと考えています。



特集2

[実習受入施設ステップアップ研修]

昨年度に続き、実習指導者のスキルアップを目的に実習受入施設ステップアップ研修が、県内三か所の会場で開催されました。その状況を報告していただきます。

晃の園 海野 やよい

介護福祉士・社会福祉士制度の改正に伴い、実習体系が大きく変化しました。介護福祉士の養成課程における実習は、実践を通して学習するという重要な機会となっています。本研修事業は、「①介護福祉士等の要請過程における実習を指導する実習施設の指導者のスキルアップを促進し、よりよい実習指導の実践に向けて、実習指導のレベルの向上を図る②実習施設間の連携を促進し、実習指導における実習施設のレベルの向上を図る」という趣旨に基づいて、静岡県より静岡県老人福祉施設協議会に委託され実施された事業です。今年度も介護福祉士等の実習を受け入れている施設の中から、豊富な実習生受け入れ実績、利用者・家族への支援などを行なっている優良かつ地域において指導的な施設、県東部地区は「あしたかホーム」西部地区は「和合愛光園」が中心となり事業が実施されました。中部地区は「晃の園」が中心となって研修を担当させて頂きました。

実習指導者は「経験知」を主体とする指導法だけでなく、新しい教育カリキュラムの中で学びを深めて来る実習生や様々な学生に答えるために実習指導者として多くを望まれる状況になってきています。そのため事前に実習受け入れについての悩みや課題から研修内容を組み立てていきました。研修内容としては講義・演習を中心に、介護福祉士のあり方及び新カリキュラム変更点・認知症の基本的理解・パーソン・センタード・ケアの考え方と認知症ケア・コミュニケーション

の本質と方法・実習指導者の役割・スーパービジョンなど多岐にわたる内容となりました。参加者の多くは、やる気のない学生や一般常識にかける学生・目的や課題を持たない学生に対し指導方法等の疑問や悩みが出され、グループワークの中で課題に対する発表後の指導方法に対しても意見を戦わせる白熱した場面も有り、有意義な時間をもつ事が出来ました。

また、事例報告会では「優良実習事例」「困難実習事例」をそれぞれ持ち寄り、事例を通して学生の捉え方・実習指導者としての介入・その経過と結果等が報告され自分自身の指導のあり方や関わり方を振り返る事が出来、実習指導者として次のステップを目指す足がかりになったようです。

今回の研修を通して、日頃実習指導者としての悩みを共有出来たこと、日々業務に追われ指導者としての自分自身を振り返る事が出来たこと、他施設の取り組みが聞け自施設に持ち帰り今後の実習指導に役立てる方法等があったことが具体的に感想になって現れていました。メール交換はもちろんのこと、受け入れシステム等を学びたいと施設見学をお願いしている参加者も見かけました。

実習指導者としての役割の重要性を感じると共に、限らない可能性を持っている実習生を育てる視点に立った指導が今後展開されていくと思います。今回、研修を担当させて頂き、当施設も多くの学びを得る事が出来ました。今後の指導に生かして行くことが出来ることをお礼申し上げます。

実習受入施設ステップアップ事業の研修実績			
東部地区 特別養護老人ホームあしたかホーム (会場:三島商工会議所)			
平成24年	1月20日(金)	参加施設	19
平成24年	1月27日(金)	参加施設	18
平成24年	2月10日(金)	参加施設	18 講師計 8名
中部地区 特別養護老人ホーム晃の園 (会場:男女共同参画センターあざれあ)			
平成23年11月	7日(月)	参加施設	18
平成23年11月	29日(火)	参加施設	18
平成23年12月	5日(月)	参加施設	19 講師計 9名
西部地区 特別養護老人ホーム和合愛光園 (会場:聖隷研修センター)			
平成23年11月	18日(金)	参加施設	16
平成23年11月	26日(土)	参加施設	16
平成24年	2月24日(金)	参加施設	14 講師計 6名



シリーズリレーコラム

「津波から命を守るスロープ工事」

特別養護老人ホーム 第二遠州の園
施設長 鈴木 昇

磐田市にある第二遠州の園は、遠州灘から約1kmの沿岸部に位置する施設です。以前から「田園地帯に建つ、潮の香りに包まれた施設です」と、事あるごとにPRをしてきました。あの日までは……。そうです。東日本大震災が発生した3月11日までは。

テレビから次々と映し出される光景を見て、もし東海地震が発生した場合には、自分の施設はどうなるんだろうという不安が押し寄せました。

私どもの施設に入居されているお年寄りのご家族で、仙台市在住の方がいます。その方の安否を気遣っていましたら、地震から一週間ほど後に施設を訪れてくれ、九死に一生で津波から逃れたとのこと。そのときにその方がおっしゃったのは、「園長さん、車で逃げちゃだめだよ。テレビでは映さなかったけど、車で逃げて、津波に飲まれ、亡くなった人が大勢いるんですよ」。

当施設は、周りが田んぼで、高台や高い建物はありません。「車で逃げてはいけない」そんな言葉に、目の前が真っ暗になりました。車はいけなければ、何とかここにとどまって助かるしかない。一ヵ月ほど悩んだある日、ふっと思いついたのが、この施設の屋上でした。平らな上、かなりの面積があります。

敷地の海拔が3.5mで、屋上までが4mあるので、都合7.5mまでの津波ならば流されずに済むのでは。中庭からスロープを二本回して屋上へ避難する、そのように考え、設計に入りました。はじき出された金額は、なんと七千万円でした。しかし、何にもしないで流されてしまうより、一人でも多くの命を救いたい、その思いから、法人の承認をいただき、工事に入ることとしました。公費の助成も考え、お願いをしましたが、「ない」との返事。待つ暇（いとま）はありませんでした。

着工が昨年11月10日、完成は、奇しくも震災の起きた日の前日の3月10日。工事費は設計監理費も含めると約七千万円を要しましたが、建設改修積立金を取り崩し充当しました。

普段から津波のことを口にしなかったお年寄りや職員、それらの家族からも「これで安心できる」との声を聞き、実際には不安に思っていたことを知り、申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。



いち早く避難できるようこれから訓練を重ねていくわけですが、これで万全というわけではありません。しかし、現時点では、次善の策としては有効かなと考えます。願わくは、このスロープを使うことがありませんように。

●施設のユニーク行事●

「シャンテ」と「ソンテ」

伊東市立養護老人ホーム 平和の杜
施設長 森 茂 廣

平和の杜では、年間を通して、素敵な歌声が聞こえてきます。

お昼休みには、デイサービスセンターから懐かしい昭和の歌謡曲が流れてきます。利用者の皆さんが、カラオケを利用して、楽しんでおられるのです。

アクティビティの時間にはスタッフによるピアノの伴奏で、季節の唱歌が、心地よく流れてきます。

また、三味線コンサートの日には、ばちの勢いを借りて民謡等を声張り上げて歌っています。

中でも、人気があるのは、毎月第四水曜日の午後「シャンテと共に」のひと時です。「シャンテ」は、伊東市内で、活動する本格的な合唱団です。五年前から、合唱団「シャンテ」の皆さんが、平和の杜を訪ね来て下さるようになりました。

毎回、メンバーのうち10名前後の皆さんが、来園し、入居者、利用者の傍近くで、一緒に歌って下さるのです。リーダーの司会で、懐かしい歌、そして新しい歌にも次々と挑戦できる刺激的で楽しい時間です。

クリスマス会や感謝の集いなどのイベントの際は、コンサート用の素敵な天女の衣装で、美しいハーモニーを奏でて、会場を魅了してくれます。シャンテの出演は、いつも、「集い」の質を品位あるものに高めてくれます。

そして、この「シャンテ」に刺激を受けて平和の杜に誕生した合唱団がスタッフと入居者で構成する「ソンテ」です。

メロディーとリズムを整えるだけでも、精一杯と思われた「ソンテ」ですが、此の頃は、勇気をもって、二部合唱にも挑戦し、平和の杜のイベントでは、シャンテと共演できるほどになりました。

「シャンテ」と「ソンテ」。コーラスのレベルでは比較になりませんが、一生懸命さと音楽を楽しむ心で、「響き合える仲間」です。いつか「シャンテ」と共に大舞台上に立てる日を夢見つつ、今日も楽しく歌っています。



「シャンテ」と「ソンテ」

キャリアパス制度導入にかかわる 概況調査から

企画経営委員長 川島 優 幸

「人は何の為に働くのか」—その根底には「諸先輩から受け継がれたものを後輩に教え伝えていく過程」があると、私は確信しております。

職場における人材育成には時間とコストが掛かります。様々な苦勞も生じます。しかし、人が成長していく姿や生き生きと働く姿は素晴らしいもので、感動さえ覚えます。

さて、キャリアパスの必要性は、現在の介護職員の定着率の低さや人材確保の困難さに起因します。マスコミは、介護現場の待遇の低さを強調し、人間関係の困難性やキャリアアップが望みにくい職場であると説明します。

私たちは、これらを改善すべく、「風通しの良い職場づくり」「適切な人事評価」「人事制度の構築」などの取り組みで対抗しようとしていきます。私たちの最大の課題は、介護の現場を魅力ある職業であり、職場環境にしていくこと。

現場職員がキャリアパス制度に期待していることは、給与体系が可視化され、わかりやすくなること。“施設で今後どのくらい頑張ればいいのか”がひとつの目安として明確化されていくことです。疾病や個人的状況により、頑張っている仕事をする事ができない場合にも、職員処遇が明らかになり、様々な働き方が確保されていることが期待されています。働きやすい職場環境の構築は管理者・経営者の責務であると痛感します。

一方、「モチベーションの向上が働きやすい職場環境を作る」という古典的な立場の方がいます。それを否定するものではありませんが、経験則的には、「言葉による曖昧な判断ではなく、業務の中で正しい行動の数を把握すること」「行うべき役割を具体的に表現すること」が職場環境を改善すると感じています。「数値化」による「観察」が「信頼」と「明確化」を導きます。また、職員の行動を具体的に書き出すことで、正しく学んだかのチェック・評価がより客観的になっていきます。これらの蓄積が科学的な考え方や説明できる介護のあり方に結びついていくと考えます。

最近、国は、若者の雇用対策（転職問題）を重要課題に挙げています。ミスマッチの

解消や職業訓練の充実などに取り組んでいますが、職場環境が旧態依然として変わらなければ、私は、転職希望の若者の数は減らず、安定雇用はままならないだろうと考えます。

雇用創出産業として期待される福祉・介護分野に携わる私たちが「魅力ある職場づくり」に努力することは非常に大切なことであります。各産業の収益力低下や超少子高齢化などの変化の時代に身を置きつつ、これからも私たちは福祉・介護の分野で様々な地域課題に対峙していかなくてはならないと考えます。

今回のアンケートで、会員の皆さんが県内の概況を把握することができ、これをもとに職員に対して十分な説明をしていくことの契機になれば幸いです。

今後とも当委員会に対する会員の皆さんのご指導ご協力を切にお願い申し上げまして標記報告といたします。

老施協新体制が決定しました。

任期は24年4月1日から26年3月31日です。

老施協理事

役職名	種別	氏名	施設名	地区
会長	特養	石川 三義	あしたかホーム	東部
副会長	軽費	木下 朝子	玉沢昭寿園	東部
副会長	在宅	海野 保	デイ・カリタス21	中部
副会長	特養	栗野 裕治	一空園	西部
理事	養護	小野 晴敏	富士市立老人ホーム駿河荘	東部
理事	特養	奥津 匡俊	天間荘	東部
理事	特養	川島 優幸	みくらの里	東部
理事(防)	特養	加藤 明己	さつき園	東部
理事	特養	山内 健司	富岳一ノ瀬荘	東部
理事	特養	杉山 好文	ながいずみホーム	東部
理事	軽費	山下 勇	ケアハウスはるかぜ	東部
理事	養護	水野 晴久	藤枝市立円月荘	中部
理事	養護	鈴木 静雄	ぎんもくせい	中部
理事	特養	小泉 雅則	なごみ	中部
理事	特養	成岡 桂子	丸子の里	中部
理事(防)	特養	河守 祺代次	つばさ	中部
理事	特養	諸田 忠雄	とこは	中部
理事	軽費	鈴木 こづえ	レインボー瀬名	中部
理事	軽費	玉田 直文	ラポーレ駿河	中部
理事	養護	峰野 政博	奥山老人ホーム	西部
理事	特養	小澤 優	グリーンヒルズ東山	西部
理事	特養	種岡 養一	西島寮	西部
理事(防)	特養	三輪 寿久	豊仙苑	西部
理事	特養	青野 容幸	おおすか苑	西部
理事	特養	北野 智照	燦光	西部
理事	軽費	三輪 尚士	もくせいの里	西部
理事	在宅	溝口 宜弘	かけがわ苑通所介護事業所	西部
常務理事	-	中澤 幹兒	老施協事務局長	-
監事	軽費	渡邊 治平	岡宮グリーンヒル	東部
監事	特養	鈴木 昇	第二遠州の園	西部
監事	-	北村 國七郎	静岡県身体障害者福祉会	-

各委員会委員長

委員会名	氏名	施設名	地区
企画経営委員会	川島 優幸	みくらの里	東部
研修委員会	奥津 匡俊	天間荘	東部
21世紀委員会	杉山 好文	ながいずみホーム	東部
高齢者福祉研究大会実行委員会	種岡 養一	西島寮	西部
養護委員会	水野 晴久	藤枝市立円月荘	中部
特養委員会	青野 容幸	おおすか苑	西部
軽費委員会	木下 朝子	玉沢昭寿園	東部
在宅委員会	溝口 宜弘	かけがわ苑通所介護事業所	西部

活動報告

【老施協】

- ★総会 24年3月21日
役員の選任(任期満了)、24年度事業計画・一般会計収支予算書について審議
- ★総会 24年5月30日
役員の選任(欠員補充)、23年度事業報告・一般会計収支決算書について審議
- ★理事会 24年3月7日
新役員選任案の決定、新委員の決定、定例総会提出議案等の協議
- 理事会 24年3月21日
現役員、新役員顔合わせ、定例総会運営・進行の確認

【企画経営委員会】

- ★24年1月16日
キャリアパス制度に関わる概況調査、機関紙34号の企画等
- ★24年4月26日
正副委員長の選出、24年度の活動計画、調査・研究テーマ等

【研修委員会】

- ★24年2月17日
23年度研修実績等
- ★24年4月24日
正副委員長の選出、24年度の研修計画、第4回研究大会の審査方法
- ★24年5月22日
第4回研究大会の業務分担、24年度研修計画と役割分担、介護力向上研修

【21世紀委員会】

- ★24年2月28日
23年度研修実績、24年度研修計画等
- ★24年4月16日
正副委員長の選出、施設間交流研修、24年度事業活動・研修計画等
- ★24年5月15日
24年度の施設間交流、接遇マナー研修、事業活動に関する各委員の要望等

【高齢者福祉研究大会実行委員会】

- ★24年2月3日
第4回大会実施素案、開催要綱案

キャッチフレーズ等

- ★24年4月16日
正副委員長の選出、第4回大会実施案募集要綱、スケジュール等
- ★24年5月18日
第4回大会発表申込状況、要員態勢、参加者アンケート案等

【養護委員会】

- ★24年2月17日
新年度委員の選出、施設でのリスク等

【特養委員会】

- ★24年4月26日
正副委員長の選出、24年度の活動計画、研修計画、調査研究テーマ等

【軽費委員会】

- ★24年2月14日
施設長研修、会則の変更、役員の改選

【在宅委員会】

- ★24年4月24日
正副委員長の選出、24年度活動計画、研修計画、調査研究テーマ等

第4回 静岡県高齢者福祉研究大会開催案内

つなごう みんなの介護

～わたしたちの熱い絆～

- 主催 静岡県老人福祉施設協議会
- 後援 静岡県、静岡県社会福祉協議会
静岡県介護福祉士会、静岡県介護支援専門員協会
静岡県社会福祉士会、静岡県地域包括・在宅介護支援センター協議会
- 期日 平成24年7月26日(木) 午前10時～午後4時20分
- 会場 グランシップ9階、10階、11階「風」(12階)
- 内容 研究発表、講演会、施設紹介コーナー、図書販売コーナー
- <講演会> 10:10～
講師 ヴォイス・セラピー実践研究家 上藤 美紀代氏
演題 「声の持つ力」～相手を想う声遣い～
- <研究発表> 11:20～
発表題数 72題 6会場に分かれて発表
参加者 ① 静岡県内の老人福祉施設の職員
② 大学・専門学校等の学生・教諭
③ 一般市民

編集後記

● 今回の報酬改定に一言。施設サービスと在宅サービスの両輪は、整理されないままの一体化という名の下に、全てが、なし崩し的に「包括」されてきているのではないのでしょうか。処遇改善加算ばかり、デイの機能訓練加算ばかり……。どこかで、誰かが、もういい加減に制度の方向をはっきりと示してもらいたいが、まだ走りながら考えるのでしょうか。(渡邊)

● 世界を風靡したアメリカGM社の会長の壁には“くまんばちとあひる”と大書してあったそうである。航空力学的には立派に飛べる筈のあひるは地べたをガアガア・親指を千切った様なくまんばちは体当たりの様に飛んできて。可能な不可能・不可能な可能。今を生き抜く私たちとしては以て銘すべきことではなからうか。(荒見)

● 静岡県に新たに「新東名」高速道路が開通。オープン後すぐにパーキングツアー(中高年バスツアー)に参加しました。「新東名」からみる富士の山は「東名」でみるより近く大きく壮大に感じました。今年の特養ご利用者の遠足は「新東名」を利用して富士山の見えるホテルで会食プランがいいなと思い帰路につきました。(花木)

事務局より●今回より一部カラー版、横書きスタイルにしてみました。

施設名称の由来と想い

ほたるの丘にかける想い

特別養護老人ホームほたるの丘
施設長 石川 貴彦

ほたるの丘は、静岡空港近くの島田市阪本地区に平成20年10月に開所した、長期100床、短期10床のユニット型特養です。設置運営法人は社会福祉法人大心会であり、平成19年に設立した法人です。

現在、ほたるの丘は開設から3年が過ぎ、やっと地域の方に存在が知られるようになってきているところです。

施設名を決めるにあたり、私達にも強い想いがありましたので、本日紹介させて頂ければと思います。

島田市の高齢者福祉施設整備計画に沿ってできた施設で、当時の市の公募条件では、現在の地域と異なる他地域が望ましいとされていましたので、指定された地域に候補地を確保し整備事業者として応募しました。その際、候補地隣地に現在も蛍がでる川が存在し、社会福祉法人及び特養は地域に根付いた福祉活動拠点である事が求められていたため、地域に関係した施設名は重要であると考え、蛍の意味を調べ次の3つの想いをこめ、ほたるの丘としました。

1つ目は、蛍は古き良き時代の日本の象徴であり、施設を利用される入居者様にとっても思い出深い名称であるとの想い。

2つ目は、「ホーホー蛍来いこっちの水甘いぞ」で伝えられる「甘い水」とは、農薬や洗剤に汚染されていない水。つまり、澄んだきれいな水であると捉え、施設に集う人々の心が、澄んだきれいな水と同じように、欲や俗に汚されることなく、利用者様等の関係する人



に対し、心清く澄んだ心やまなざしで接することができることを切望する想い。

3つ目は、映画火垂るの墓にもそういうシーンがありましたが、蛍は死の霊魂と言われていました。私達は、利用者様が好き好んで入居したわけでない人生の集大成の場となる施設の生活において、職員が利用者様本位の法人理念に則し、利用者様の希望を判断行動の基本とし達成することができれば、きっと施設の存在が自宅以上に満足される環境となり、いずれ訪れる最期の後においても、楽しかった施設で生活し続けたいとの想いから、蛍のように魂が舞い続けて頂けるような施設にしたいという想いです。

今迄もそしてこれからも、ほたるの丘にかけた想いを全職員が認識し、より良いサービス提供に努めていきたいと思っています。

新 加 入 施 設 紹 介

平成24年7月1日現在



特別養護老人ホーム
菜の花

法人名 社会福祉法人 聖啓会
開設日 平成24年4月1日開設
(入会申込 平成24年4月1日)
施設長 川口 節子
所在地 藤枝市内瀬戸194-1
入所定員 70名 短期 20名



特別養護老人ホーム
小鹿なでしこ苑

法人名 社会福祉法人 静岡県済生会
開設日 平成24年4月1日開設
(入会申込 平成24年4月1日)
施設長 平原 健巳
所在地 静岡市駿河区小鹿402-1
入所定員 96名
デイサービス 12名 短期 12名



特別養護老人ホーム
松秀園

法人名 社会福祉法人 和松会
開設日 平成18年8月29日開設
(入会申込 平成24年4月1日)
施設長 太田 圭一郎
所在地 菊川市高橋2774-1
入所定員 40名



ケアハウス
ケアハウスゆやの里

法人名 社会福祉法人 八生会
開設日 平成24年4月2日開設
(入会申込 平成24年4月17日)
施設長 白木 孝典
所在地 磐田市加茂395
入所定員 50名 短期 10名

(お詫び) 4月以降の新規加入施設、「デイみもぞ」、「グレイス」、「丘ホーム」につきましては、紙面の都合上、次号以降に掲載させて頂きます。